

# 孤独死防止へ

## 八幡東 集合住宅サミット開く

居住者の高齢化に伴う集合住宅での孤立の実態について考える「集合住宅サミット in 北九州・大蔵」が19日、八幡東区の大蔵市民セ

ンターで開かれた。自治会などで行く大蔵まちづくり協議会の主催で、北九州市内の自治会関係者のほか、高齢化率が高い公営団地

で地域づくりに取り組んでいる東京都新宿区と京都市の住人ら約100人が参加。孤独死を防ぐ対策について熱心に話し合った。

八幡東区の傾斜地に位置する大蔵地区は65歳以上の高齢化率が約36%。自治会を構成する町会ごとにもると50%超のところもあり、

高齢化率が64%の京都市管醍醐南団地の宮田光雄自治会長は「孤独死は突然起きるわけではなく、何か病気があって起きる。病気の段階でいち早く見付けてあげること、孤独死は防げる」と話した。

高年齢者ニーズ調査などに取り組んでいる。サミットは「他地域の取り組みに学ぼう」と企画した。

始めに、高齢化するコミュニティ(集落)の問題を研究している北九州市立大の榎原真二教授が「都市の高齢

【佐藤敬一】



活発な意見が交わされた集合住宅サミット